小串地区　5月　日（　）

吉田地区　3月30日（金）共通11番教室
　　4月　5日（木）メディア基盤教室
常盤地区　5月16日(水)　C講義棟C11講義室

平成30年度
化学物質使用量等の調査について

化学物質安全管理WG長
排水処理施設
藤原　勇

平成30年化学物質調査計画

４－５月　PRTR

環境負荷

１. 特定化学物質　＆　有機溶剤
２. 高圧ガス使用量
３. 化学薬品類

１１月　毒劇物　調査

平成30年化学物質関連計画　一部

１. 化学物質管理教育および講習会

常盤地区　５月16日　廃液の出し方説明会案
　　5-6月　毒劇物講習会
吉田　　4月　日　廃液の出し方説明会
　　6月　　毒劇物講習会　未定
小串地区　　５月　日　廃液の出し方説明会
　　毒劇物講習会

２．不要薬品の調査および薬品の再利用と廃棄（吉田）

4月−7月

３．　新化学物質管理支援システムの施行がはじまります（吉田から）

作業環境測定の値から化学物質リスクアセスメントが始まります
作業環境測定が一部自前測定（安全衛生対策室）

化学物質管理ロードマップ（H30）

平成　25年　26年　27年　28年　29年　30年　35年（5年後）　40年（10年後）

1. 学内規則とルール

化学物質管理規則制定

実施

化学物質管理区分および管理基準の制定

化学物質リスクアセスメント実施

マニュアル・手引きの作成

劇物、毒物、高圧ガス、特化、有機則、PRTR、消防法等

2. 化学物質情報の収集及び解析

薬品購入の情報入手（吉田、常盤、小串地区地区）

3. 化学物質管理システムの構築と運用

新システム開発

新システムの運用開始

4.化学物質管理教育および講習会

安全、化学物質管理　リスクマネジメント

毒劇物廃液管理、危険物講習会

調査結果報告

学外　PRTR（市→県→国）、毒劇物（県）

学内　環境報告書2017、　環境保全33号

トップメッセージと環境理念

山口大学は、９学部８研究科からなる学生数１万人を超える総合大学です。1815 年、長州藩士 上田鳳陽によって創設された私塾「山口講堂」が源流であり、2015 年に創基 200 年を迎えました。本学は「発見し・はぐくみ・かたちにする　知の広場」の理念の基に、教育・研究・社会貢献の３本の矢により地域の発展、日本そして世界の発展に貢献することを目指しています。

さて、近年において地球環境を取り巻く環境問題として地球温暖化が特に問題視されています。地球温暖化対策は、エネルギーや経済に関する政策により大きく影響を受けるものです。また、この影響は日本だけの問題に留まらず、地球全体のものとして国際的に議論が進められています。

こうした中、本学では地球温暖化防止対策として、スローガン「省こう　無駄なエネルギー　使おう知のエネルギー」を合い言葉に環境配慮活動を推進するとともに、環境負荷低減を目指した取り組みとして具体的な活動目標を「山口大学の環境目標と行動計画」として定め、事業活動による環境負荷の低減、環境貢献技術の創出、地域との協調・コミュニケーション等、それぞれに詳細な目標・行動を掲げ、学生・教職員（大学全構成員）に展開しています。また、教育面では、山口大学の置かれている社会・地域環境について現状を理解し、幅広く学習することで地球温暖化防止にチャレンジする人材の育成を推進します。研究面では、省エネ対策の技術の創造、エコ社会体制の提案、人間と生物の共生などの専門分野において環境負荷低減手段の開発等、最先端の研究成果を生み出す研究体制を推進します。さらに、地方創生を推進するカリキュラムを導入し、自治体や地域産業との結びつきを強固にすることで地域に求められる大学として発展できるように考えています。

山口大学は、学生・教職員が自ら地球温暖化防止に関心を持って、皆様と共に歩みたいと思います。

国立大学法人山口大学
学長　　岡　正朗

環境理念

国立大学法人　山口大学は，「発見し・はぐくみ・かたちにする知の広場」の理念のもと，地域共生型キャンパスの創生と持続的発展可能な社会形成への貢献に努めるとともに，教職員，学生が自らの意欲を高め，その持てる能力を十二分に発揮して，地域環境の保全と環境負荷の低減をめざした取り組み・活動を行います。

環境方針

（1）事業活動における環境負荷の低減
（2）環境貢献技術の創出
（3）環境モラルの醸成
（4）地域との協調・コミュニケーション
（5）法規制の遵守とマネジメントシステムの整備・充実

2018 年度スローガン　　環境対策　最初の一歩は一人一人の心がけ

SDS制度（MSDS）とは

- 「第一種指定化学物質，第二種指定化学物質及びそれらを含有する製品（指定化学物質等）を他の事業者に譲渡・提供する際，その性状及び取扱いに関する情報（SDS：Safety Data Sheet）の提供を義務付ける制度」をいう.
- SDS制度の対象事業者を「指定化学物質等取扱事業者」と呼ばれ，指定化学物質等を取り扱う事業者が対象となる.
- PRTR制度の対象事業者と異なり，業種や常用雇用者員数，年間取扱量による除外要件はなく，指定化学物質等を取り扱っているすべての事業者が対象となる

４－５月化学物質の調査　２種類

第１部　PRTR　関連

第２部　環境影響物質の出入に関する

WEB上にてデーターの入力です

H29年度の内容

提出期限　2018年５月18日（金）

問合先　　排水処理施設長　　藤原　Tel 5137

PRTR とは

（Pollutant Release and Transfer Register）
化学物質排出移動量届出制度

化学物質排出把握管理促進法
（化管法）

- 有害性のある多種多様な化学物質が，どのような発生源から，どれくらい環境中に排出されたか，あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し，集計し，公表する仕組み.

化学物質排出把握管理促進法

対象業種として製造業、電気・ガス業をはじめ、大学等の高等教育機関などが指定されており、常用雇用者21人以上で、いずれかの第１種指定化学物質の年間取扱量が1t以上または特定第１種指定化学物質の年間取扱量が0.5tの事業者が対象

平成２２年４月一部改正

１．第一種指定化学物質　　462物質

２．特定第一種指定化学物質　　15物質

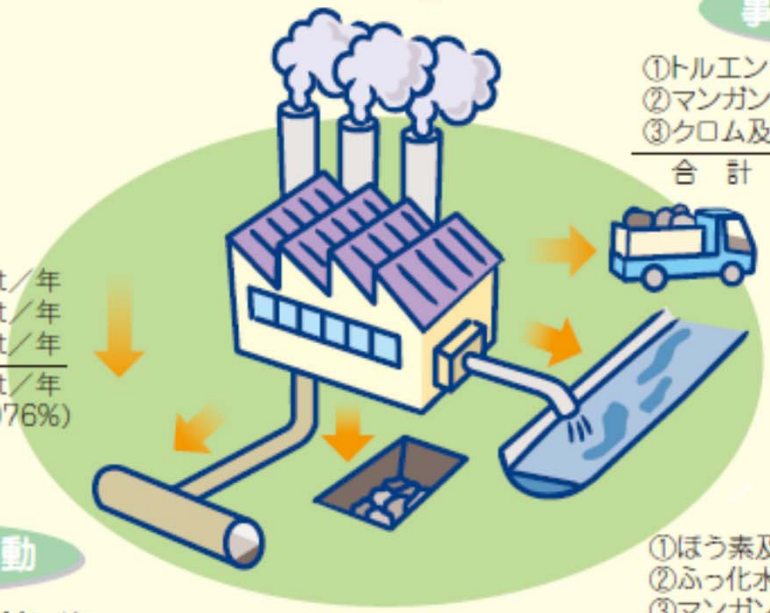
３．「医療業」も含む

大気

①トルエン	97,987t／年
②キシレン	43,063t／年
③塩化メチレン	18,406t／年
合　計	209,645t／年
	（全体の46%）

事業所の外への移動

①トルエン	52,881t／年
②マンガン及びその化合物	23,067t／年
③クロム及び三価クロム化合物	12,315t／年
合　計	220,856t／年
	（全体の48%）



土壌

①エチレングリコール	231t／年
②トルエン	47t／年
③マンガン及びその化合物	46t／年
合　計	345t／年
	（全体の0.076%）

公共用水域

①ほう素及びその化合物	3,089t／年
②ふっ化水素及びその水溶性塩	2,708t／年
③マンガン及びその化合物	815t／年
合　計	10,224t／年
	（全体の2.2%）

下水道への移動

①N,N-ジメチルホルムアミド	341t／年
②エチレングリコール	240t／年
③2-アミノエタノール	154t／年
合　計	1,868t／年
	（全体の0.41%）

当該事業所における埋立処分

①鉛及びその化合物	6,492t／年
②マンガン及びその化合物	5,482t／年
③砒素及びその無機化合物	1,000t／年
合　計	14,084t／年
	（全体の3.1%）

（事業所からの報告分のみ）

薬品使用量等集計表　PRTR関連

化学物質名	H28年度末貯留量	H29年度購入量	H29年度使用量	H29年度末貯留量
	kg	kg	kg	kg
	kg	kg	kg	kg
	kg	kg	kg	kg

注意：　単位は　必ずkgで入力してください。

記入上の注意及びお願い

- 購入量、使用量、貯留量のどれかの行為があったものについてそれぞれ購入量、使用量、貯留量を入力。

・平成29年度：4月1日から翌年3月31日

・薬品情報：　購入量、使用量、貯留量、貯留量(3月末日)を入力

・化学物質名；第一種指定化学物質（462種類）の物質

・

・第一種・二種指定化学物質は環境省のホームページから探すことができます。
環境省のホームページhttp://www.env.go.jp/

記入上の注意　例2

例1　購入量、使用量が無くても貯蔵量がある場合は以下のように入力してください

	化学物質名	H27年度末貯留量	H28年度購入量	H28年度使用量	H28年度末貯留量
1	ジクロロメタン	0.0 kg	0.0 kg	0.0 kg	2.0 kg

例2　購入し他後、すべて使用量しても貯蔵量がない場合は以下のように記入してください

	化学物質名	H27年度末貯留量	H28年度購入量	H28年度使用量	H28年度末貯留量
1	クロロホルム	2.0 kg	2.0 kg	2.0 kg	0.0 kg

物質量の計算の考え方類

１．　物質の重さを扱っている

例　水銀（Hg）その物を扱う（純度１００％、化合物でない）

２．溶媒を扱う（単位　L　）→　比重から重さに変換）　kg

クロロホルム（d=1.47）トルエン（d=0.87）ベンゼン（d=0.88）

３．金属化合物　　例、　塩化亜鉛　中の“亜鉛”　を考える

これが一番難しい

４．物質が溶けた溶液：　例、５％ホルムアルデヒド溶液

（３７％ホルマリン溶液＝100％ホルムアルデヒド溶液）

2.溶媒の場合

溶媒が体積表示の場合には
この値に比重をかけて重さに換算した後入力下さい

H26年度末貯留量	H27年度購入量	H27年度使用量	H27年度末貯留量
L	L	L	L
L	L	L	L
L	L	L	L

比重をかけて
重さに換算

	化学物質名	H26年度末貯留量	H27年度購入量	H27年度使用量	H27年度末貯留量
1		kg	kg	kg	kg
2		kg	kg	kg	kg
3		kg	kg	kg	kg

例、　クロロホルム、トルエン、ベンゼン

クロロホルム（d=1.47）　トルエン（d=0.87）ベンゼン（d=0.88）体積を測った場合

重さ　＝　比重 X 体積

化学物質名	H27年度末貯留量	
クロロホルム（d=1.47）	2.94	kg
トルエン（d=0.87）	0.3915	kg
ベンゼン（d=0.88）	0.792	kg

体積

H27年度末貯留量	
2	L
0.45	L
0.9	L

薬品が液体の場合は比重を用いて重さ（kg）に直してください

4. 物質が溶けた溶液

<例>ホルマリン？%溶液の場合

溶液では含まれている物質量を計算することになります

<例>ホルマリン溶液の場合、ホルムアルデヒドの量として計算します。

5%ホルムアルデヒド溶液100kgの場合はホルムアルデヒド5kgとなります。

3. 金属化合物の算出例

金属化合物で有れば金属の質量として計算することになります

〇〇および〇〇化合物　　カドミウム、銅、

個別物質の例	組成式	分子量
塩化亜鉛	$ZnCl_2$	136.3

金属等の原子量の合計（M）	換算係数（M /分子量）
65.4	0.48

塩化亜鉛　中の　亜鉛　は

$ZnCl_2$が10kgであった場合
10 kg　X　0.48　＝4.8 kg

$$\frac{Zn}{ZnCl_2} = \frac{65.4}{136.3} = 0.48$$

対象外は考えなくてよい

個別物質の例	組成式	対象外（×）	対象外の理由（水溶性等）	他の対象物質
塩化銀（Ⅰ）	AgCl	×	0.155 mg/100 mL	
酸化銀（Ⅰ）	Ag_2O	×	0.0174 g/L	
シアン化銀（Ⅰ）	AgCN	×	2.2×10^{-4} g/L	無機シアン化合物として対象

その他　物質別注意点

- 亜鉛水溶性化合物 > 溶けない物は対象外
- 銀およびその水溶性化合物 > 溶けない物は対象外。AgCN は無機シアン化合物
- 無機シアン化合物（錯塩及びシアン酸塩を除く）
- 銅塩（水溶性の物であって、錯塩を除く）。オキシン銅はそれ自体が対象物
- ニッケルとニッケル化合物は別に計算する
- バリウム及びその水溶性化合物
- ふっ化水素及びその水溶性塩
- ほう素及びその化合物

H28年度の資料　大学全体

表2　第一種指定化学物質該当薬品のキャンパス別集計（単位：kg）

地区名	H27年度末 貯留量	H28年度 購入量	H28年度 使用量	H28年度末 貯留量
吉田地区	794.8	260.5	261.0	794.3
常盤地区	375.9	2067.9	1832.1	611.7
小串地区	225.3	1515.2	1512.4	228.0
合計	1396.0	3843.6	3605.5	1634.0

山口大学環境保全第33号より

環境影響調査結果：インプット&アウトプット

導入量（INPUT）

エネルギー資源

総エネルギー量(503,598 GJ)
（原油換算量 12,993 kL)

内訳

電力	43,895	千kWh
都市ガス	480	千m^3
液化石油ガス	382	m^3
A重油	1,376	kL
その他油	72	kL

水資源

上水	360	千m^3
井戸水	26	千m^3
雨水	2.9	千m^3

紙資源

紙類購入量 169 t

その他

化学物質 52.6 t、
実験器具、
グリーン調達物品、
木材等

ECO

自家発電
263千kwh
太陽光パネル
755 千kWh

山口大学

排出量（OUTPUT）

排出ガス

温室効果ガス排出量
32,656 t-CO_2

内訳

電力	27,638	t-CO_2
都市ガス	1,101	t-CO_2
液化石油ガス	3	t-CO_2
A重油	3,728	t-CO_2
その他油	186	t-CO_2

調整前温室効果ガス排出量

排水

総排水量 354 千m^3

廃棄物

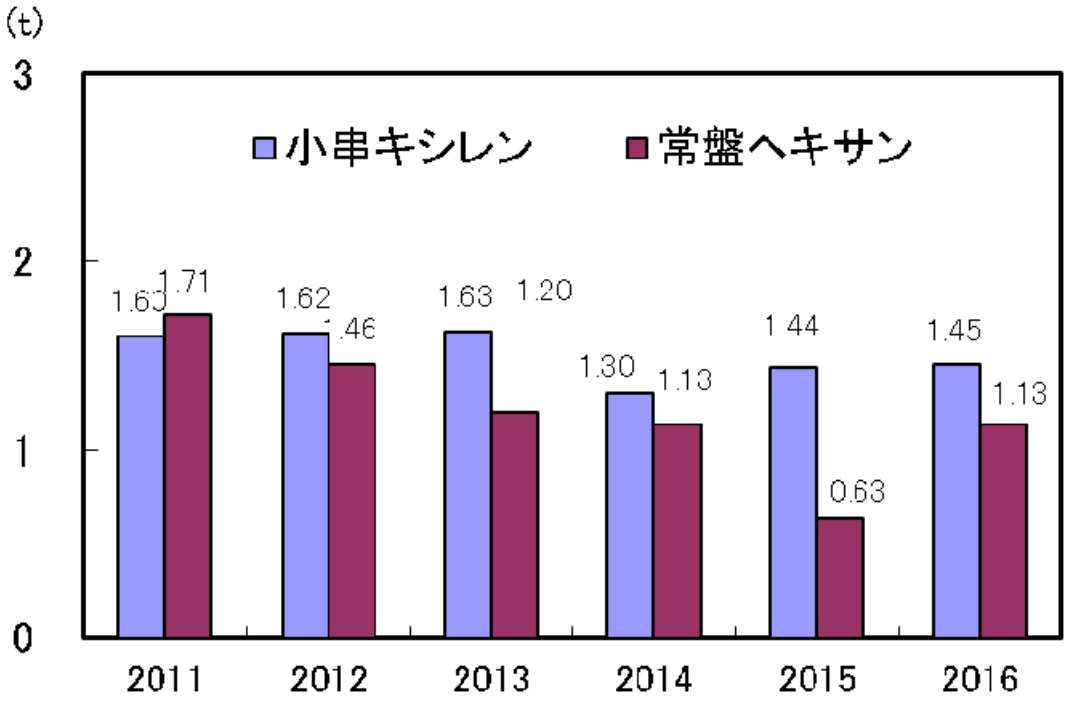
一般廃棄物	748 t
産業廃棄物	746 t
感染性廃棄物	436 t
実験廃液	26 t
PRTR(第一種)	3 t

PRTR関連の溶媒の推移

多量に使用する物質は要注意

キシレン、n-ヘキサン、（ジクロロメタン、クロロホルム）

使用量



環境報告書2017　から抜粋と修正

表3　大学全体の使用量上位10物質（単位：kg）

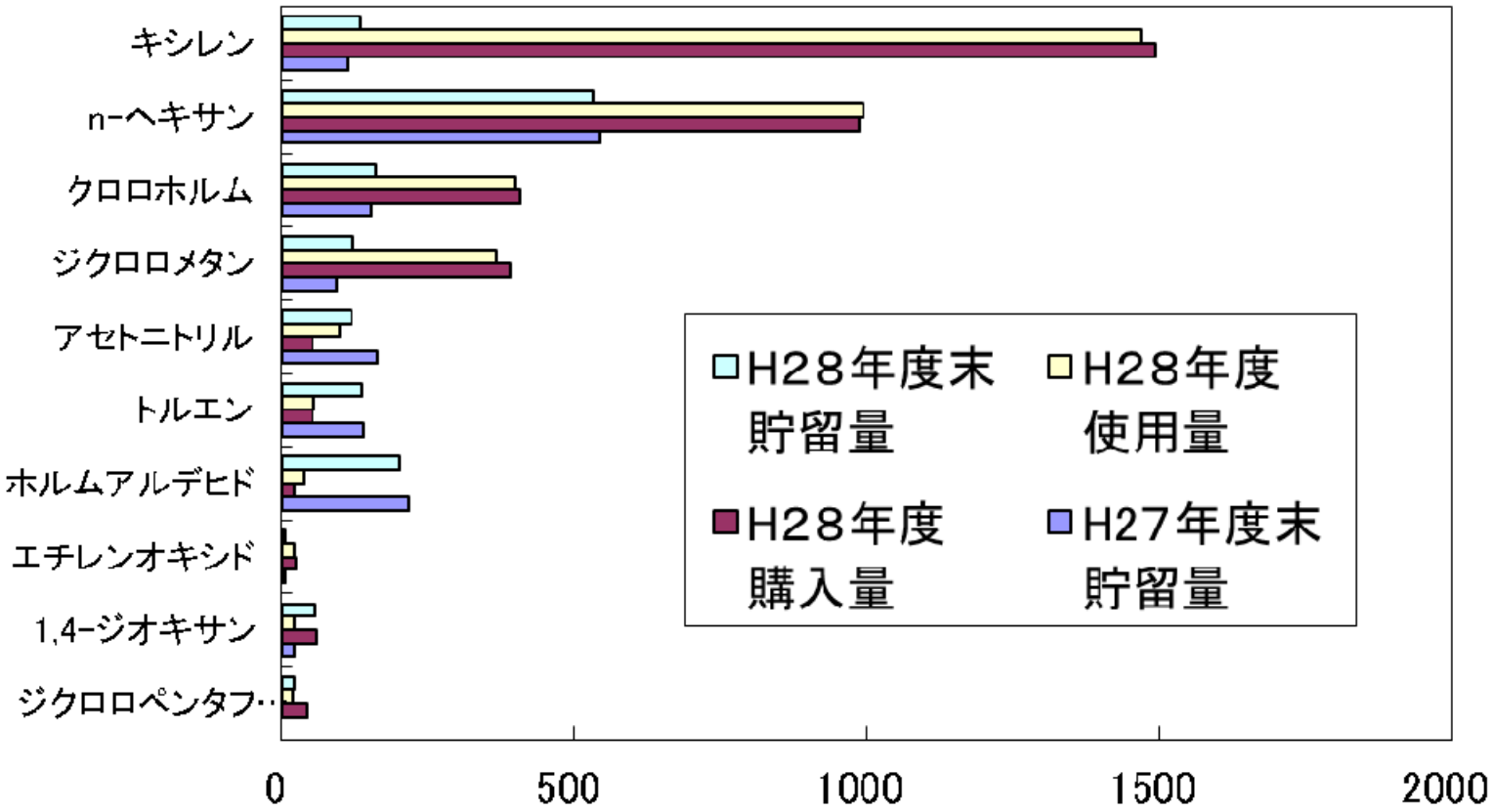
No.	化学物質名	H27年度末 貯留量	H28年度 購入量	H28年度 使用量	H28年度末 貯留量
1	キシレン	112.3	1494.3	1471.7	134.9
2	n-ヘキサン	543.1	986.6	994.9	534.8
3	クロロホルム	152.9	408.4	400.7	160.6
4	ジクロロメタン	93.2	391.4	365.4	121.6
5	アセトニトリル	162.8	52.9	97.4	118.4
6	トルエン	139.6	53.4	55.5	137.5
7	ホルムアルデヒド	218.2	22.4	38.0	202.6
8	エチレンオキシド	5.0	23.6	22.4	6.3
9	1,4-ジオキサン	20.2	59.9	21.7	58.4
10	ジクロロペンタフルオロプロパン	0.0	42.0	19.6	22.4

ヘキサンとキシレンは量が多い

表3　大学全体の使用量上位10物質（単位：kg）

大学全体2

多量に使用する下記の物質は要注意
キシレン、n-ヘキサン、（ジクロロメタン、クロロホルム）



2016年度

大学全体集計結果

特定化学物質集計

有機溶剤集計結果

a) 第1類特定化学物質　　単位/kg

	第1類特定化学物質名	数量
1	ｼﾞｸﾛﾍﾞﾝｼﾞﾝ及びその塩	0.0
2	ｱﾙﾌｧｰﾅﾌﾁﾙｱﾐﾝ及びその塩	0.0
3	塩素化ﾋﾞﾌｪﾆﾙ	0.0
4	ｵﾙﾄ-ﾄﾘｼﾞﾝ及びその塩	0.0
5	ｼﾞｱﾆｼﾞﾝ及びその塩	0.0
6	ﾍﾞﾘﾘｳﾑ及びその化合物	0.0
7	ﾍﾞﾝｿﾞﾄﾘｸﾛﾘﾄﾞ	0.0

b) 第2類特定化学物質

	第2類特定化学物質名	数量
1	ｱｸﾘﾙｱﾐﾄﾞ	2.6
2	ｱｸﾘﾆﾄﾘﾙ	1.5
3	アルキル水銀化合物	0.0
4	石綿	0.0
5	ｴﾁﾚﾝｲﾐﾝ	0.0
6	塩化ﾋﾞﾆﾙ	0.0
7	塩素	0.0
8	ｵｰﾗﾐﾝ	0.0
9	ｵﾙﾄ-ﾌﾀﾛｼﾞﾆﾄﾘﾙ	0.0
10	ｶﾄﾞﾐｳﾑ及びその化合物	0.0
11	ｸﾛﾑ酸及びその塩	0.5
12	ｸﾛﾛﾒﾁﾙﾒﾁﾙｴｰﾃﾙ	0.1
13	五酸化ﾊﾞﾅｼﾞｳﾑ	0.0
14	ｺｰﾙﾀｰﾙ	0.0
15	三酸化砒素	0.0
16	ｼｱﾝ化ｶﾘｳﾑ	0.0
17	ｼｱﾝ化水素	0.0
18	ｼｱﾝ化ﾅﾄﾘｳﾑ	0.0
19	3,3'-ｼﾞｸﾛﾛ-4･4-ｼﾞｱﾐﾉｼﾞﾌｪﾆﾙﾒﾀﾝ	0.0
20	臭化ﾒﾁﾙ	0.0
21	重ｸﾛﾑ酸及びその塩	0.8
22	水銀及びその無機化合物	0.1
23	ﾄﾘﾚﾝｼﾞｲｿｼｱﾈｰﾄ	0.0
24	ﾆｯｹﾙｶﾙﾎﾞﾆﾙ	0.0
25	ﾆﾄﾛｸﾞﾘｺｰﾙ	0.0
26	ﾊﾟﾗ-ｼﾞﾒﾁﾙｱﾐﾉｱｿﾞﾍﾞﾝｾﾞﾝ	0.0
27	ﾊﾟﾗ-ﾆﾄﾛｸﾛﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ	0.0
28	弗化水素	1.0
29	ﾍﾞｰﾀ-ﾌﾟﾛﾋﾟｵﾗｸﾄﾝ	0.0
30	ﾍﾞﾝｾﾞﾝ	27.4
31	ﾍﾟﾝﾀｸﾛﾙﾌｪﾉｰﾙ及びそのﾅﾄﾘｳﾑ塩	0.0
32	ﾏｾﾞﾝﾀ	0.0
33	ﾏﾝｶﾞﾝ及びその化合物	1.0
34	沃化ﾒﾁﾙ	0.5
35	硫化水素	0.0
36	硫酸ｼﾞﾒﾁﾙ	0.0

c) 第3類特定化学物質

	第3類特定化学物質名	数量
1	ｱﾝﾓﾆｱ	5.4
2	一酸化炭素	0.0
3	塩化水素	67.7
4	硝酸	14.6
5	二酸化硫黄	0.0
6	ﾌｪﾉｰﾙ	4.8
7	ﾎｽｹﾞﾝ	0.0
8	ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ	198.1
9	硫酸	106.8

d) その他の物質名

	その他の物質名	数量
1	ｱｸﾛﾚｲﾝ	0.0
2	硫化ﾅﾄﾘｳﾑ	0.0

a) 第1類有機溶剤　　単位/kg

	第1類有機溶剤名	数量
1	ｸﾛﾛﾎﾙﾑ	1167.0
2	四塩化炭素	8.0
3	1,2-ｼﾞｸﾛﾙｴﾀﾝ	3.8
4	1,2-ｼﾞｸﾛﾙｴﾁﾚﾝ	0.0
5	1,2,2,2-ﾃﾄﾗｸﾛﾙｴﾀﾝ	0.0
6	ﾄﾘｸﾛﾙｴﾁﾚﾝ	7.4
7	二硫化炭素	0.0

b) 第2類有機溶剤

	第2類有機溶剤名	数量
1	ｱｾﾄﾝ	1546.9
2	ｲｿﾌﾞﾁﾙｱﾙｺｰﾙ	2.7
3	ｲｿﾌﾟﾛﾋﾟﾙｱﾙｺｰﾙ	72.0
4	ｲｿﾍﾟﾝﾁﾙｱﾙｺｰﾙ	0.0
5	ｴﾁﾙｴｰﾃﾙ	99.1
6	ｴﾁﾚﾝｸﾞﾘｺｰﾙﾓﾉｴﾁﾙｴｰﾃﾙ	0.3
7	ｴﾁﾚﾝｸﾞﾘｺｰﾙﾓﾉｴﾁﾙｴｰﾃﾙｱｾﾃｰﾄ	0.5
8	ｴﾁﾚﾝｸﾞﾘｺｰﾙﾓﾉﾌﾌﾞﾁﾙｴｰﾃﾙ	0.0
9	ｴﾁﾚﾝｸﾞﾘｺｰﾙﾓﾉﾒﾁﾙｴｰﾃﾙ	2.9
10	o-ｼﾞｸﾛﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ	0.0
11	ｷｼﾚﾝ	1478.9
12	ｸﾚｿﾞｰﾙ	0.4
13	ｸﾛﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ	0.3
14	酢酸ｲｿﾌﾞﾁﾙ	1.3
15	酢酸ｲｿﾌﾟﾛﾋﾟﾙ	1.0
16	酢酸ｲｿﾍﾟﾝﾁﾙ	0.0
17	酢酸ｴﾁﾙ	734.5
18	酢酸ﾌﾞﾁﾙ	2.2
19	酢酸ﾌﾟﾛﾋﾟﾙ	0.2
20	酢酸ﾍﾟﾝﾁﾙ	3.0
21	酢酸ﾒﾁﾙ	1.0
22	ｼｸﾛﾍｷｻﾉｰﾙ	1.0
23	ｼｸﾛﾍｷｻﾉﾝ	1.5
24	1,4-ｼﾞｵｷｻﾝ	29.3
25	ｼﾞｸﾛﾙﾒﾀﾝ	386.3
26	N,N-ｼﾞﾒﾁﾙﾎﾙﾑｱﾐﾄﾞ	32.6
27	ｽﾁﾚﾝ	2.0
28	ﾃﾄﾗｸﾛﾙｴﾁﾚﾝ	0.0
29	ﾃﾄﾗﾋﾄﾞﾛﾌﾗﾝ	45.7
30	1,1,1-ﾄﾘｸﾛﾙｴﾀﾝ	2.2
31	ﾄﾙｴﾝ	123.0
32	n-ﾍｷｻﾝ	975.6
33	1-ﾌﾞﾀﾉｰﾙ	6.1
34	2-ﾌﾞﾀﾉｰﾙ	0.6
35	ﾒﾀﾉｰﾙ	1001.9
36	ﾒﾁﾙｲｿﾌﾌﾞﾁﾙｹﾄﾝ	0.2
37	ﾒﾁﾙｴﾁﾙｹﾄﾝ	0.3
38	ﾒﾁﾙｼｸﾛﾍｷｻﾉｰﾙ	0.0
39	ﾒﾁﾙｼｸﾛﾍｷｻﾉﾝ	0.0
40	ﾒﾁﾙﾌﾟﾁﾙｹﾄﾝ	0.0

c) 第3類有機溶剤

	第3類有機溶剤名	数量
1	ｶﾞｿﾘﾝ	20.1
2	ｺｰﾙﾀｰﾙﾅﾌｻ	0.0
3	石油ｴｰﾃﾙ	30.2
4	石油ﾅﾌｻ	0.0
5	石油ﾍﾞﾝｼﾞﾝ	2.0
6	ﾃﾚﾋﾞﾝ油	0.0
7	ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ	0.0

【高圧ガス】関連

a) 第一種高圧ガス

	第一種高圧ガス名	数量	単位
1	ヘリウム	114.8	m^3
2	ネオン	5.0	m^3
3	アルゴン	140576.6	m^3
4	クリプトン	0.5	m^3
5	キセノン	0.0	m^3
6	ラドン	0.0	m^3
7	窒素	22138.2	m^3
8	二酸化炭素	241.3	m^3
9	フルオロカーボン	3.0	m^3
10	空気	33.7	m^3

b) 第二種高圧ガス

	第二種ガス名	数量	単位
11	圧縮アセチレンガス	0.0	m^3
12	液化シアン化水素	0.0	kg
13	液化ブロムメチル	0.0	kg
14	液化酸化エチレン	0.0	kg
15	アクロニトリル	0.0	m^3
16	アクロレイン	0.0	m^3
17	アセチレン	10.0	m^3
18	アセトアルデヒド	6.0	m^3
19	アンモニア	252.0	m^3
20	一酸化炭素	0.0	m^3
21	エタン	0.0	m^3
22	エチルアミン	0.0	m^3
23	エチルベンゼン	0.0	m^3
24	エチレン	7.0	m^3
25	塩化エチル	0.0	m^3
26	塩化ビニル	1.5	m^3
27	クロルメチル	0.0	m^3
28	酸化エチレン	0.0	m^3
29	酸化プロピレン	0.0	m^3
30	シアン化水素	0.0	m^3
31	シクロプロパン	0.0	m^3
32	ジメチルアミン	0.0	m^3
33	水素	5819.0	m^3
34	トリメチルアミン	0.0	m^3
35	二硫化炭素	0.0	m^3
36	ブタジエン	0.0	m^3
37	ブタン	0.0	m^3
38	ブチレン	0.0	m^3
39	プロパン	0.0	m^3
40	プロピレン	0.0	m^3

	第二種ガス名続き	数量	単位
41	ブロムメチル	0.0	m^3
42	ベンゼン	0.0	m^3
43	メタン	8.0	m^3
44	モノメチルアミン	0.0	m^3
45	メチルエーテル	0.0	m^3
46	硫化水素	0.0	m^3
47	亜硫酸ガス	0.0	m^3
48	塩素	0.0	m^3
49	クロロプレン	0.0	m^3
50	五フッ化ヒ素	0.0	m^3
51	五フッ化リン	0.0	m^3
52	三フッ化窒素	0.0	m^3
53	三フッ化ホウ素	0.0	m^3
54	三フッ化リン	0.0	m^3
55	フッ素	0.0	m^3
56	ホスゲン	0.0	m^3
57	酸素	678.8	m^3
59	亜酸化窒素	1.5	m^3
60	液化窒素	1106.6	m^3
61	混合標準ガス	0.0	m^3
62	液化炭酸ガス	130.1	m^3
63	その他(PR: Ar+CH4)	134.5	m^3

c)特定高圧ガス

	特定高圧ガス名	数量	単位
59	圧縮水素	32.0	m^3
60	圧縮天然ガス	0.0	m^3
61	液化酸素	52.0	kg
62	液化アンモニア	0.0	kg
63	液化石油ガス	0.0	kg
64	液化塩素	0.0	kg

d)特殊高圧ガス

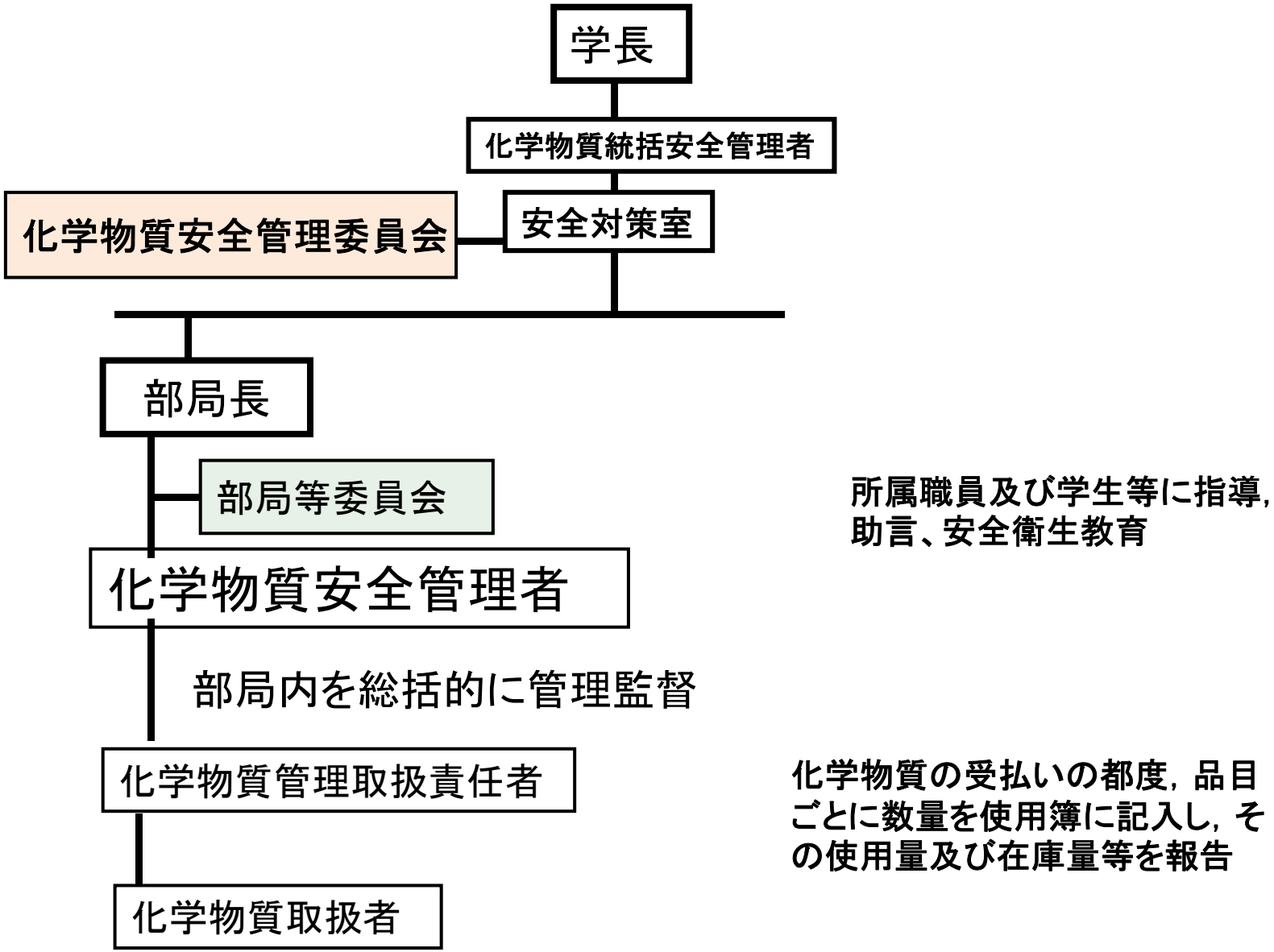
	特殊高圧ガス名	数量	数量
65	圧縮モノシラン	0.0	m^3
66	圧縮ジボラン	0.0	m^3
67	液化アルシン	0.0	m^3
68	モノシラン	0.0	m^3
69	ホスフィン	0.0	m^3
70	アルシン	0.0	m^3
71	ジボラン	0.0	m^3
72	セレン化水素	0.0	m^3
73	モノゲルマン	0.0	m^3
74	ジシラン	0.0	m^3

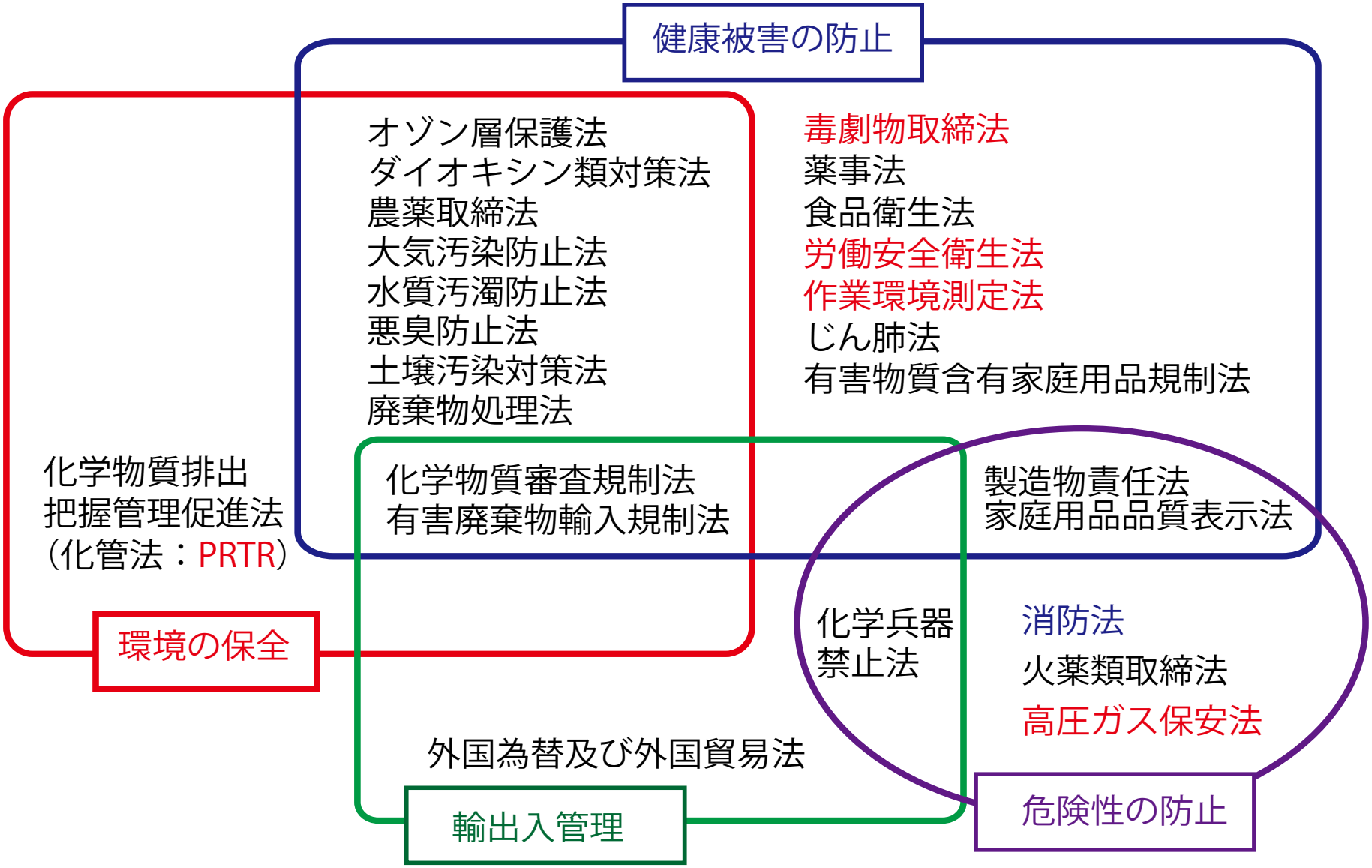
その他

単位/kg

	物 質 名	数　量
1	硫化りん	0.0
2	赤りん	0.0
3	硫黄	0.0
4	鉄粉	0.0
5	カリウム	0.3
6	ナトリウム	1.3
7	アルキルアルミニウム	0.0
8	アルキルリチウム	1.0
9	黄りん	0.0
10	ベンゼン	16.3
11	エチルアルコール	3445.3
12	メチルアルコール	1025.5
13	灯油	5.4
14	軽油	0.0
15	樟脳(しょうのう)油	0.0
16	氷さく酸	1.8
17	重油	120.0
18	クレオソート油	0.2
19	グリセリン	7.2
20	ギヤー油、シリンダー油、タービン油	0.5
21	いわし、にしん、あまに油、きり油、えの油	0.0
22	過塩素酸	0.6
23	過酸化水素	53.3
24	シアン	0.0
25	有機燐	0.0
26	鉛	0.0
27	六価クロム	0.2
28	ひ素	0.0
29	銅	0.8
30	亜鉛	0.1
31	溶解性鉄	0.0
32	クロム	0.1
33	ポリ塩化ビフェニル	0.0
34	シス-1,2-ジクロロエチレン	0.0
35	1,1,2-トリクロロエタン	0.0
36	1,3-ジクロロプロペン	0.0
37	チウラム	0.0
38	シマジン	0.0
39	チオベンカルブ	0.0
40	よう素	1.0
41	燐	0.0

化学物質管理体制（H25年5月制定）



参考資料1

化学物質国内規制法：分類別